

【研究開発の名称】ICTを活用した栽培支援最適化システムの開発」(2014年度採択課題)

■ 開発の経緯・概要

- 一般農家から植物工場まで最適な栽培支援システムにより、魅力ある農業労働環境と高付加価値な農作物を効率的に生産する次世代農業の実現を目指す。
- 蓄積データを活用する栽培支援システムではなく、今までとは全く違うテクノロジーを基本として、安価且つ収穫量や品質の向上を確立するシステムであれば、世界での技術アドバンテージを確立することができるため。
- 先進国での食料の多様化やニーズへの対応。発展途上国のように栽培環境が悪い地域において高機能作物を栽培することにより、食糧危機をなくすことを目標とした栽培支援システムを世界に投入するため。

■ 現状の成果

- 独自開発した生体センサーと野菜育成プログラムにより、野菜の健康状態を常に見守り、育成を予測してコントロールする栽培支援システムを実用化。従来システムに比べて大幅なコストダウンと利用者の大幅な収益向上を実現。(2018年5月現在)
- 栽培支援システムでの栽培可能品種
ミニトマト(2017年発売済み) メロン、イチゴ、お茶(2019年度開発予定)

■ 会社概要

	設立時 2014年10月	採択時 2015年4月	現在 2018年10月
資本金	3百万円	38.5百万円	215百万円
従業員数	0人	2人	14人

■ I-Challenge!活用による成果

【PoCの成果】

- ビニールハウス及び実験用室内プラントにて収量・品質・育成期間等を効果的に予測するAI及び、農作物自体の状況を把握するための生体センサーやICTを活用したデータ連携等の仕組みを開発し、次世代型農作物栽培最適化支援システムのビジネスモデルを確立。

【I-Challenge! ここがすごい！】

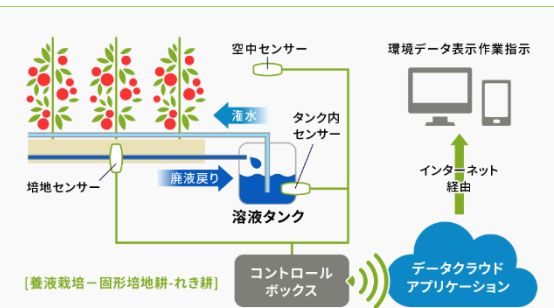
- 経営ハンズオンを国の支援で指導していただける補助事業
- この補助事業を取得することによる対外的な信用性向上の効果がある。

【事業化支援機関からの支援内容】

[事業支援機関:(株)TNPオンザロード]

- 起業における、注意点、改善点の毎月のレビュー
- 知財の戦略的取り扱い、追加技術の相談
- 営業先の積極的な紹介

システム概要図



栽培手法による生体優位性



特殊培地+当社の栽培支援システム 莖径 15mm

水分制限農法 莖径 5mm